

2010 eastlib 研修分科会

私立大学図書館協会 東地区研究部 研修分科会 第2期 2010年度

第6回 2010. 12. 17.

日時
2010年12月17日 (金)
13:00-17:00

会場
東京理科大学 森戸記念館
2階 第1会議室

テーマ
目録世界の動向

講演
新元公寛氏 (紀伊國屋書店)

Access Map



会場へは開始の**定刻前**にお越しください。
また、急に来られなくなった場合や遅刻する場合は、**必ず連絡**をお願いします。
大学図書館支援機構事務局 携帯番号：090-9100-0387

君たち世代が図書館の 将来を決める

今目録の世界が大きく変わろうとしています。FRBR (Functional requirements for bibliographic records : final report. K.G. Saur, 1998. 136p [<http://www.ifla.org/VII/s13/frbr/frbr.pdf>]) がIFLAから公表されて既に12年経ち、今年8月にALAは、これまでの英米目録規則に代わるRDA : Resource Description and Accessを発表しました。また、日本図書館協会も『日本目録規則』の改訂に向けて、基本方針を打ち出し、2010年末まで意見を求めています。
[<http://www.jla.or.jp/mokuroku/index.html>]

そもそも、なぜこのような動きが起こっているか考えてみましょう。図書館で扱う資料は所謂図書・雑誌といった紙媒体に限らず、範囲が広がってきました。また、提供する情報は、図書館で所蔵する資料だけでなく、インターネット等のデジタル情報を多く扱うようになってきました。情報を整理して利用者に提供するという図書館の役割に対して、従来の目録規則も変わらざるを得ないと考えられます。利用者の観点から目録の機能要件をモデル化して示したものがFRBRです。そしてその考え方を実際に図書館の目録にも取り入れようと動き出しているのです。

日本の大学図書館の目録システムは、多くがNACSIS-CATのデータを基盤にしています。NACSIS-CATが次世代目録を検討して

いるのもご存知の通りです。これまで蓄積してきた資産を活かしつつ、どう変わっていくのか、変えていけばいいのか、利用者の行動パターンから、今の図書館員が考えないと、図書館の機能は次世代に対応していけません。

Time Table

時間	内容
13:00-14:30	新元公寛氏講演
14:30-14:45	ティーブレイク
14:45-15:00	質疑応答
15:00-15:45	グループ討議
15:45-16:00	発表・全体討議
16:10-17:00	2010研修分科会のまとめ

講演：目録世界の動向

目録世界をグローバルな視点でお話いただきます。FRBR、RDAを簡単に解説していただき、OCLCの最近の動向をご紹介します。国際的な標準としてMARC21のフォーマットがありますが、世界的に最も巨大なOCLCではどうなっているのでしょうか。利用者インターフェースや機能、収録情報の最近の話題をご提供いただき、今後グローバルスタンダードはどのように変わっていくのかのヒントが得られると思います。

宿題

(1)検索結果比較

同じ資料の検索結果表示画面をワードに張付けます。

(2)90秒スピーチ原稿

1年間の研修分科会の感想を発表してもらいます。最終回の内容を書き加える時間を設けますが、これまでの回について下書きを書いてください。

提出期限：12月6日 (月) 必着

提出先：info@iaal.jp

※書式に上書きし、3頁以内に収めてください。(今回は集計しませんので、各自プリントアウト持参していただく量を抑えるため)

第5回 Google books 2010.10.29

↓ご指導いただいた松下鈞先生



↓青山学院大学図書館見学

